

令和6年度第3回鶴ヶ島市まちづくり審議会（令和6年6月12日）

第6次鶴ヶ島市総合計画 後期基本計画の策定に向けて ～「総合戦略（重点戦略）」の取組について～

総合政策部 政策推進課

目次

- 01 本市の「総合戦略」について
- 02 地方創生に向けたまちづくりの視点について

平成26年11月「まち・ひと・しごと創生法」の制定

《国の考え方》

人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある日本社会を維持する。

- ①人口減少の克服
- ②地方創生（東京圏への一極集中の是正）

地方創生は、国と地方が連携・協力し、中長期的な視点に立って取り組む必要



国の動き

平成26年
第1期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」

令和元年
第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」

令和5年12月
「デジタル田園都市国家構想総合戦略」
（令和5年度～令和9年度）

市の動き

平成28年
第1期「鶴ヶ島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」

令和2年
第2期「鶴ヶ島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」
（※総合計画と一体的に策定＝重点戦略）

令和7年
「（仮）鶴ヶ島市デジタル田園都市構想総合戦略」
（令和7年度～令和11年度＝後期基本計画）

01 本市の総合戦略について

■ 「（仮）鶴ヶ島市デジタル田園都市構想総合戦略」（令和7年度～令和11年度）

《国の考え方》

「デジタル田園都市国家構想総合戦略」とは、

- 「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会（デジタル田園都市国家構想）」の実現
- これまでの地方創生の取組をデジタル技術の活用によって継承・発展させていく。
- デジタルの力によって地域の個性を生かしながら、社会課題の解決や地域の魅力向上の取組をさらに加速化・深化させていく。



これまでの基本的な考え方は維持 + 「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を勘案

- 「第2期鶴ヶ島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（令和2年度～令和6年度）

国の4つの基本目標

地方に仕事をつくる

結婚・出産・子育ての希望をかなえる

人の流れをつくる

魅力的な地域をつくる



本市の3つの重点戦略

子どもにやさしいまちづくり

いつまでも健康でいられるまちづくり

多様な働き方が実現できるまちづくり

《本市の基本的な考え方》

市の特性を活かし、

市内外を含めた多様な人びとの交流を生み出す魅力ある地域社会をつくることで、

将来にわたって市の活力を維持する

「魅力ある地域社会をつくり、将来にわたって市の活力を維持する」



しあわせ共感

安心のまち

つるがしま

地方創生に向けた取組

- 人口減少のスピードを緩やかにするため…
- 人口が減っても…、少子高齢化が進行しても…



- ◆ 若い世代に「選ばれるまち」となるようなシンボリックな取組が必要
- ◆ 若い世代やこどもたちの意見、次世代の価値感を取り入れたまちづくりが必要
- ◆ 市内外に向けて市の魅力や特徴を分かりやすく発信する必要
- ◆ 若い世代にはデジタルを活用した情報発信が有効
- ◆ 転入してきた子育て世帯が孤立しないよう地域とのつながり方を検討することが必要
- ◆ 子育て世代のニーズに合致するような制度や事業が必要。公的サービスで補えないところは民間と連携
- ◆ 就職による若者の転出を抑制するため、企業誘致等による地域の中での雇用が必要
- ◆ 働く子育て世帯に合わせた学校や地域との新しい関わり方を検討する必要
- ◆ こどもの頃から郷土愛を育む取組、将来帰ってきたくなくなるようなしかけが必要
- ◆ 近隣大学の学生を地域に巻き込むしかけ。将来の転入を期待



若い世代や子育て世代に選ばれるまちづくり



- ◆ 今の時代や地域の実情（年齢構成やライフスタイル）に合った地域コミュニティ、つながり方を考える必要
- ◆ 地域の担い手の確保・育成が必要
- ◆ 地域と連携し、転出した若者が戻ってくる取組が必要
- ◆ 世代間交流や地域の中で協働の機会を提供することが必要
- ◆ 地域の核となる人材の確保・育成
- 地域づくりに健康づくりを活用
- 災害時の助け合い（共助）

➡ 共に支え合う地域づくり



- ◆ 「愛着度」「住みやすさ」「住み続けたい」を活かす取組
- ◆ 災害リスクが少ない・地盤の強さをPR（住宅・企業立地）
- ◆ 地の利を活かしたまちづくり
- ◆ 企業誘致と雇用機会の創出による職住近接のまちづくりが必要
- デジタル技術の活用
- 官・学・民連携の取組
- ゼロカーボンの実現に向けた取組
- 新たな魅力の創出・地域資源の活用（関係・交流人口の創出）

➡ 持続可能なまちづくりの推進